

令和6年度

藍住中学校 「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

どのように社会・世界と関わっていくのかを考え、よりよい人生を送るために、理解していること・できることを増やし、これらを活用して課題を解決していく力の育成。

学力向上検討委員会構成

学力向上推進員 戸出 剛	委員	校長 : 三木健司
	教頭	佐藤美幸 安友孝宣
	学年主任	青木武士 阿部桂子 小泉美和

校長

三木 健司

【小中連携または中高連携における共通の取組】

ICTの効果的な活用と話し合い活動の充実により、児童・生徒の学力向上を図る。

【各校における実行プランの取組状況の把握について】

管理職による授業参観や教員からの報告等、様々な機会を捉えて取組状況を把握する。

◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○基礎的基本的な知識・技能の習得のため、課題に真面目に取り組む生徒が多い。 ●入学時から学力に二極化が見られ、全体として読解力に課題がある。	・授業で学習した内容を概ね理解することができる。 ・基礎的基本的な知識・技能を確実に身につけ、定着させることができる。	・新しい取組を授業に取り入れて公開し、授業改善を行い、タブレットの効果的な活用方法等について研修を行い、個別最適かつ協働的な学びが一体的に充実した授業を展開する。 ・単元の終了後に小テストを行うなど、スモールステップで復習させ、知識・技能を確実に習得させる。			

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○学んだ知識・技能を活用して課題を解決しようとする意欲がある生徒が多い。 ●根拠や理由を考へて判断したり、表現したりすることが苦手な生徒が多い。	・文章、図、表の内容を理解して、知識・技能を活用して、正しく判断することができる。 ・授業で学んだことをもとに、自分の意見を根拠や理由を考へて表現することができる。	・学力向上確認プリント、ステップアップテスト、全国学力調査の問題を活用して、判断力を培う。 ・根拠や理由をわかりやすく表現する方法を指導し、定期テスト等で表現させ、自信を持たせる。 ・考えたり、意見を言えたりする、話し合い活動を多く取り入れる。			

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○ほとんどの生徒が落ち着いて真面目な態度で授業に取り組むことができている。 ●家庭でゲームやスマホをする時間が長く、家庭学習が定着していない生徒が少なくない。	・毎月目標を設定し、振り返りを行うことで、自己肯定感や自己有用感を高めようとする。 ・毎日の自主勉強ノートや宿題を、学力向上を目指して取り組もうとする。	・生徒の学習活動に対して全教員がポジティブな行動支援(SWPBS)を継続し、学習意欲を高めようとする。 ・自主勉強ノートや課題の提出物を確認して、学習がより充実したものになるよう個別の助言を具体的にを行う。			

令和6年度 学力向上ロードマップ

